



Nid  
NID D'OISEAU

NID = 鳥の巣

このNidという詩が

自分の「巣」の中にいるようにあたたかく

安心できる場所であればいいなという思いから

「巣」と名付けました。

疲れたときや傷ついたときは一度立ち止まり

非日常の世界：Nidで羽を休め

鳥のように羽ばたいてほしいと感じたからです。



外の世界と関係を打ち切り  
自分の殻に閉じこもることで何かが生まれる。

それは自由になりたいとか新しいことをしたいとか思うんじゃなくて  
自分になろうとする行為。

自分自身を追求することで、新しく生まれ変われる。

Nid projectは周りには分からない  
自分だけの確実な変化。



Nid

NID D'OISEAU



自分の支配することのできる  
わずかな心の部分は  
美しい思い出や想像の世界で  
「自由になれ」という。

それは悲しみや幸せ、全ての感情から  
解き放たれることを願い  
ただひたすら日々を過ごし生きること。

好きな言葉に

「世界は僕の中に。僕は世界の中に」  
ってのがあります。

最終的には自分が世界を判断する基準なんだけど、  
それは自信がなく、現実の壁にうやむやになって、地中深くに埋もれている。

それを知ったとき無力感を覚えた。  
知らないことがあまりに多すぎたから。

ヒンズー教徒の瞑想。  
フランス人の無の美学。  
アメリカ人の多様性。  
中国人の合理的さ。  
ユダヤ人の掟。  
チベット人の自由の精神。  
イタリア人の光の見え方。  
イスラム教徒の潔癖さ。  
仏教徒の森の静寂。  
バスク人のプライド。





何より生まれ持ったその人オリジナルな個人的な感覚。

それらの全ての精神を理解して初めて世界が見える。

同じ日本人でさえ、理解し合えることはとても難しい。

だから僕は今よりもっと多くの人たちと刹那的にでも触れ合いたいと思った。

現実社会ではけっして触れ合うことの無いだろう個人の主観が

ぶつかり合うコミュニケーションが存在すると思ったから。